

米国経済・金融概況 (2026年3月)

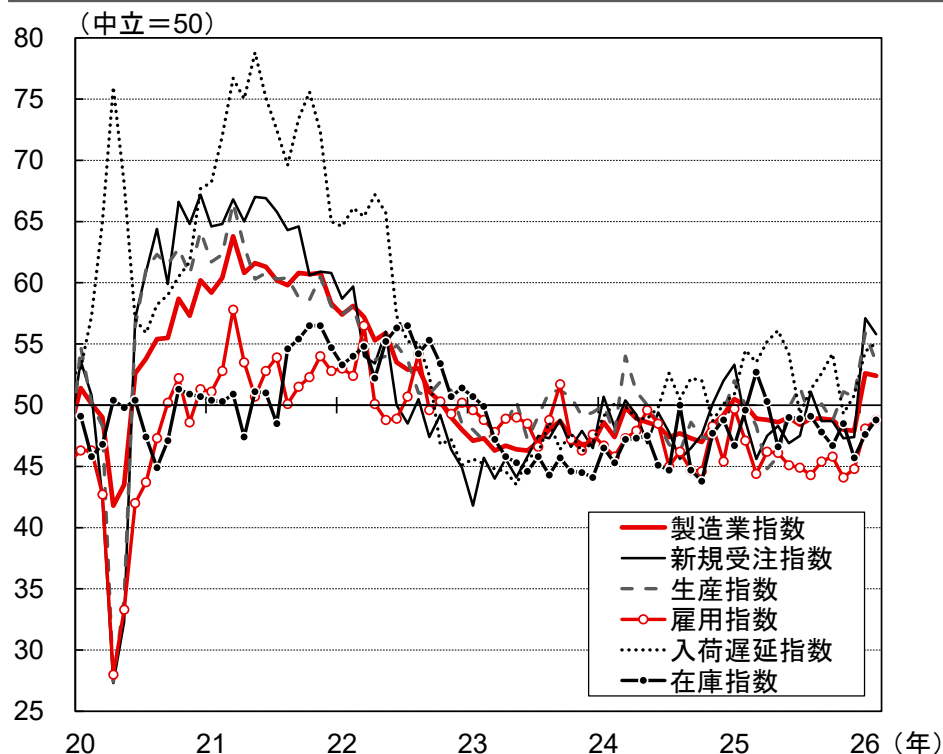
2026年3月31日

経営企画部経済調査室(ニューヨーク)

1. 企業活動

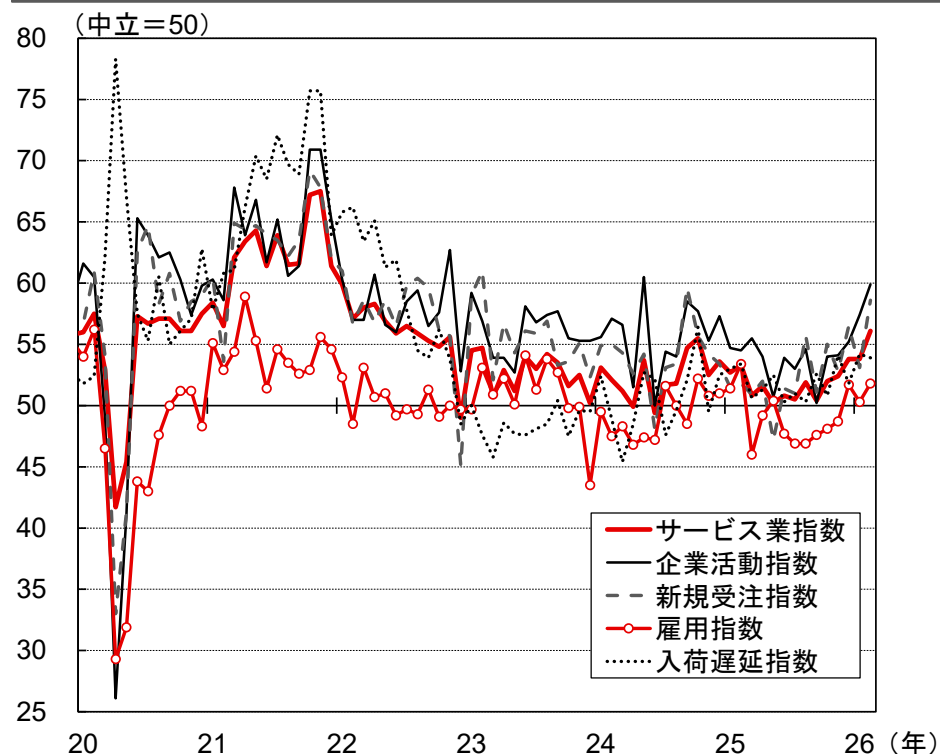
- 製造業の景況感・活動状況を表すISM製造業指数(総合指数)は2月に52.4(前月比▲0.2ポイント)と小幅低下も、2カ月連続で中立の50を上回った。指数の構成項目をみると、生産指数(53.5、同▲2.4ポイント)、新規受注指数(55.8、同▲1.3ポイント)は低下。一方、在庫指数(48.8、同+1.2ポイント)、雇用指数(48.8、同+0.7ポイント)は上昇。また、価格指数(70.5、同+11.5ポイント)は大幅に上昇し、2022年6月以来の高水準。産業別では全18産業のうち12産業が拡大、5産業が縮小、1産業が横這いを報告(1月は9産業が拡大、8産業が縮小、1産業が横這い)。
- 2月のISMサービス業指数(総合指数)は56.1(前月比+2.3ポイント)と上昇し、2022年7月以来の高水準。新規受注指数(58.6、同+5.5ポイント)、企業活動指数(59.9、同+2.5ポイント)は2024年以来の高水準となり、雇用指数(51.8、同+1.5ポイント)は3カ月連続で中立の50を上回った。また、価格指数(63.0、同▲3.6ポイント)は2カ月ぶりに低下。産業別では全18産業のうち14産業が拡大、3産業が縮小、1産業が横這いを報告(1月は11産業が拡大、5産業が縮小、2産業が横這い)。

ISM製造業指数の推移



(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

ISMサービス業指数の推移

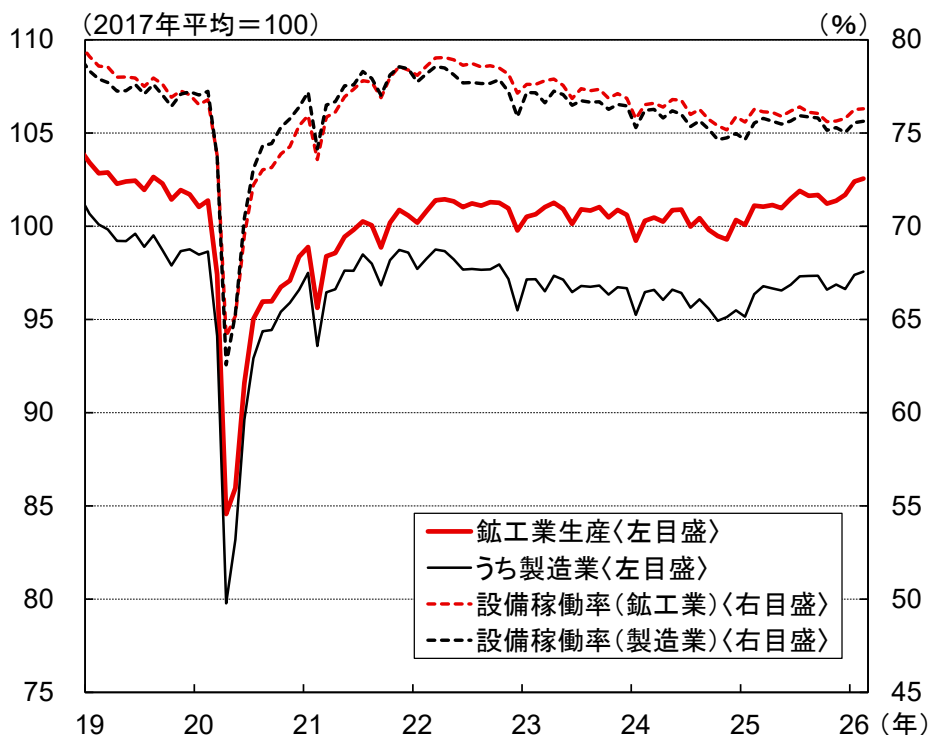


(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 生産

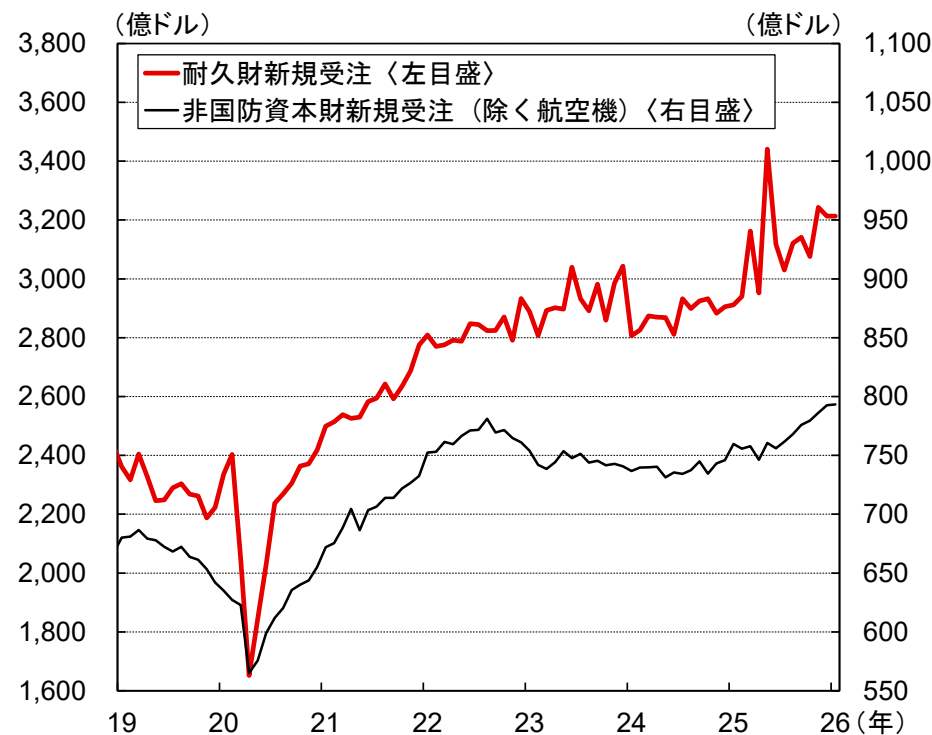
- 2月の鉱工業生産は前月比+0.2%と4ヵ月連続で増加。産業別では全体の約7割を占める「製造業」が同+0.2%と2ヵ月連続で増加。内訳をみると、「機械」(同▲1.2%)は減少した一方、「自動車・同部品」(同+1.7%)、「電機機器・家電」(同+1.1%)、「コンピュータ・電気製品」(同+0.4%)は増加。また、「鉱業」は同+0.8%と2ヵ月連続で増加した一方、「公益事業(電気・ガス)」は同▲0.6%と3ヵ月ぶりに減少。2月の設備稼働率は76.3%、うち「製造業」は75.6%と、それぞれ前月から横這い。
- 1月の耐久財受注は前月比+0.0%と横這い。内訳をみると、「コンピュータ・電気製品」(同+1.3%)、「一次金属」(同+0.7%)、「金属製品」(同+0.5%)は増加した一方、「電機機器・家電」(同▲0.6%)、「自動車・同部品」(同▲0.2%)は減少。設備投資の先行指標であるコア資本財受注(非国防資本財受注、除く航空機)は同+0.1%と7ヵ月連続で小幅増加。

鉱工業生産と設備稼働率の推移



(資料) FRB統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

耐久財受注の推移

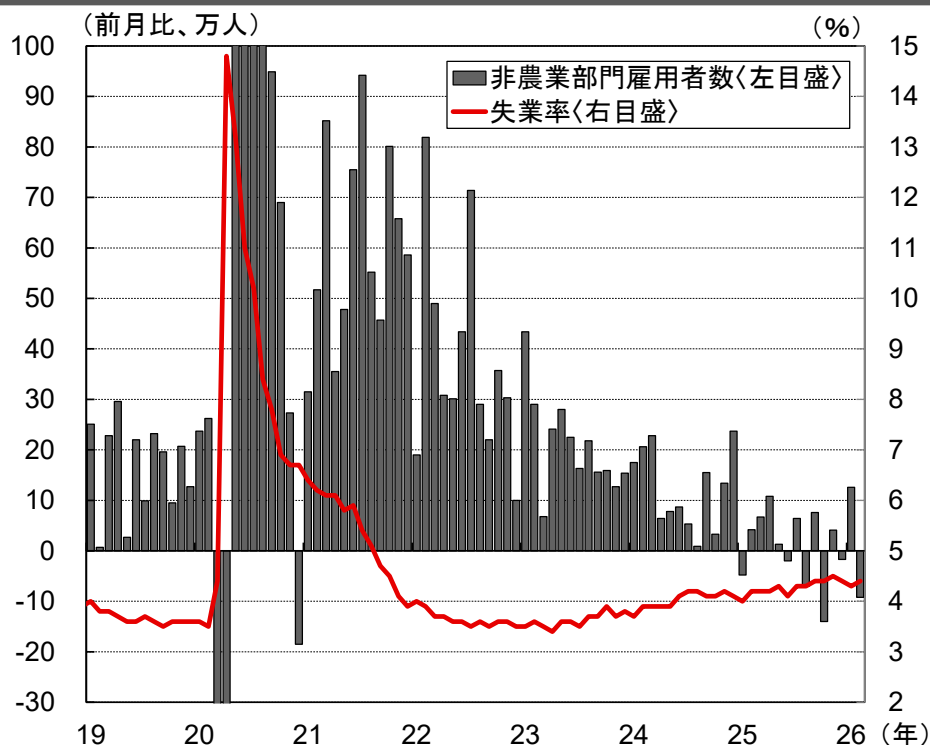


(資料) 米商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

3. 雇用

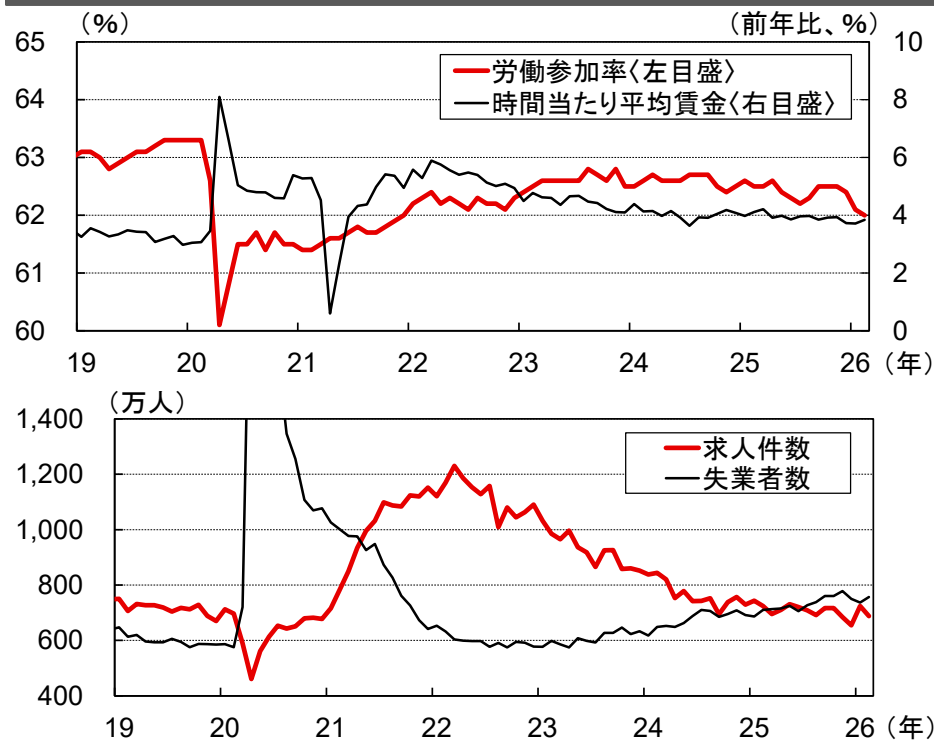
- 2月の非農業部門雇用者数は前月比▲9.2万人と2ヵ月ぶりに減少(1月:同+12.6万人、改定値)。業種別にみると、これまで雇用増の大部分を占めてきた「医療・社会扶助」(同▲1.9万人)が医療従事者のストライキの影響もあり減少に転じたほか、「レジャー・接客」(同▲2.7万人)、「製造業」(同▲1.2万人)、「情報通信」(同▲1.1万人)、「運輸・倉庫」(同▲1.1万人)、「建設業」(同▲1.1万人)等も減少。また、「政府」(同▲0.6万人)のうち「連邦政府」(同▲1.0万人)は13ヵ月連続で減少。
- 2月の失業率は4.4%(前月差+0.1%ポイント)と上昇、労働参加率は62.0%(同▲0.1%ポイント)と低下。時間当たり平均賃金(民間部門)は前年比+3.8%と前月(同+3.7%)から加速。
- 2月の求人件数は688.2万件(前月比▲35.8万件)と2ヵ月ぶりに減少。求人件数を失業者数で割った求人倍率は0.91倍と前月(0.98倍)から低下。

非農業部門雇用者数・失業率の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

労働参加率・平均賃金・求人件数・失業者数の推移

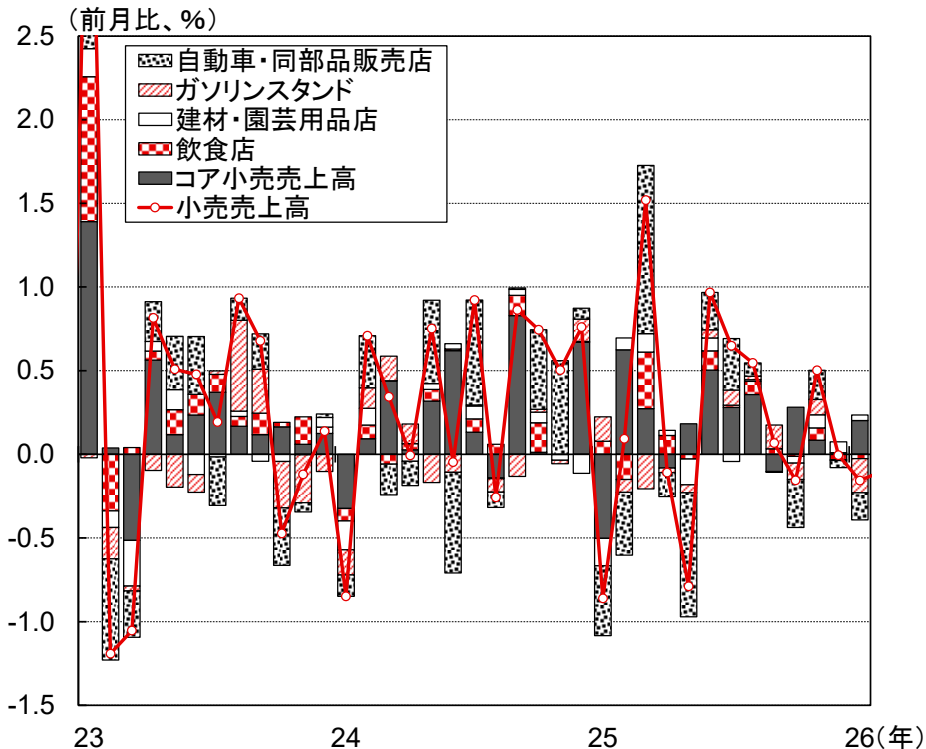


(資料)米国労働省より三菱UFJ銀行経済調査室作成

4. 個人消費

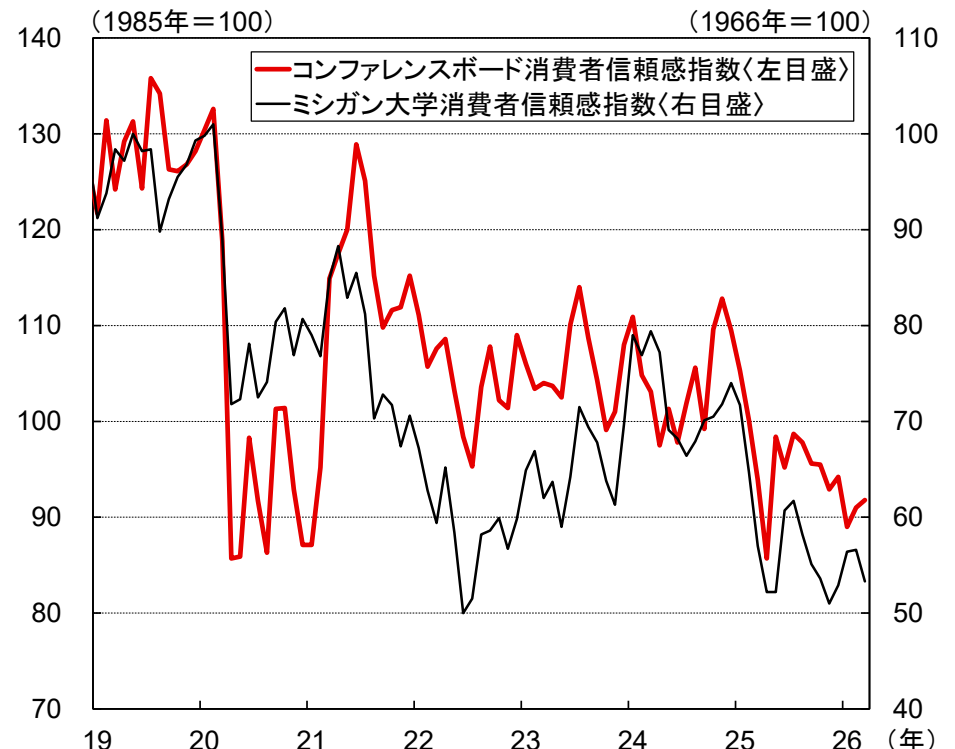
- 1月の小売売上高は前月比▲0.2%（前月：同▲0.0%）と減少した一方、コア売上高（自動車、ガソリン、建設資材、食品サービスを除く）は同+0.3%（前月：同+0.0%）と増加。業種別にみると、「衣料品販売店」（同▲1.7%）、「自動車・同部品店」（同▲0.9%）、「電機・家電販売店」（同▲0.6%）、「飲食店」（同▲0.2%）は減少した一方、「無店舗小売店」（同+1.9%）、「家具販売店」（同+0.7%）、「建材・園芸用品店」（同+0.6%）は増加。
- 3月のミシガン大学消費者信頼感指数は53.3（前月比▲3.3ポイント）と4カ月ぶりに低下。イラン情勢を受けたガソリン価格上昇と不安定な金融市場を背景に、中・高所得層や株式資産を保有する消費者のマインド悪化が顕著であったとミシガン大学は指摘。一方、コンファレンスボード消費者信頼感指数は91.8（同+0.8ポイント）と2カ月連続で上昇。現況の景況感や雇用環境に対する見方が改善した。もっとも、イラン戦争に伴う原油ショックを背景に、消費者の1年先のインフレ期待は昨年春の相互関税導入時以来となる大幅な上昇を示した。

小売売上高の推移



(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

消費者信頼感指数の推移



(資料)コンファレンスボード、ミシガン大学統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

5. 住宅

- 1月の住宅着工戸数は前月比+7.2%の年率148.7万戸(季節調整済)と3ヵ月連続で増加。内訳をみると、一戸建住宅は同▲2.8%の93.5万戸と4ヵ月ぶりに減少した一方、変動の大きい集合住宅(5世帯以上)は同+29.1%の52.4万戸と大幅に増加して全体を押し上げた。先行指標である住宅着工許可戸数は同▲4.7%の年率138.6万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに減少。
- 2月の中古住宅販売戸数は前月比+1.7%の年率409万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに増加。一方、1月の新築住宅販売戸数は同▲17.6%の年率58.7万戸(季節調整済)と2ヵ月連続で大幅に減少。内訳をみると、北東部は同▲44.7%、中西部は同▲33.9%と大幅に減少し、例年よりも厳しい冬の天候が影響したとみられる。
- 2月の中古住宅販売価格は398,000ドル(中央値)、前年比+0.3%(前月:同+0.4%)と2ヵ月ぶりに伸びが鈍化。1月の新築住宅販売価格は400,500ドル(中央値)、同▲6.8%(前月:同▲0.9%)と下落幅が拡大。

住宅着工戸数・許可戸数・住宅市場指数・住宅販売戸数の推移



(資料)米国商務省、全米不動産業協会統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

住宅販売価格の推移

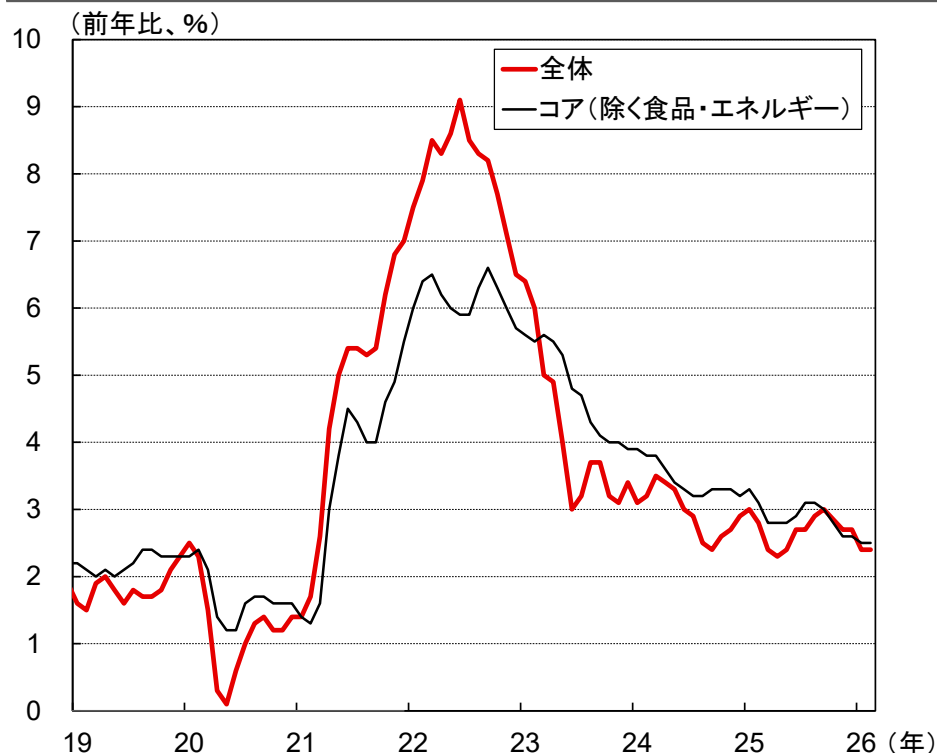


(資料)全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

6. 物価

- 2月の消費者物価指数は、総合指数が前年比+2.4%、食品とエネルギーを除いたコア指数は同+2.5%とそれぞれ前月から伸びは横這い。コア指数の構成項目のうち、「航空運賃」が同+7.1%(1月:同+2.2%)と大幅に上昇したほか、「衣料品」も同+2.5%(1月:同+1.7%)と加速。一方、「中古車」は同▲3.2%(1月:同▲2.0%)と下落幅が拡大。
- 2月の生産者物価指数は前年比+3.4%(1月:同+2.9%)、食品とエネルギーを除いたコア指数は同+3.9%(1月:同+3.5%)とそれぞれ大幅に加速。品目別にみると、「食品」は同▲0.3%(1月:同▲1.0%)、「エネルギー」は同▲0.7%(1月:同▲3.7%)とそれぞれ下落幅が縮小したほか、食品とエネルギーを除いた「コア財」は同+4.3%(1月:同+4.2%)と加速。また、「サービス」は同+3.8%(1月:同+3.4%)と4カ月連続で加速。

消費者物価指数の推移



(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

生産者物価指数の推移



(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

7. 国際収支

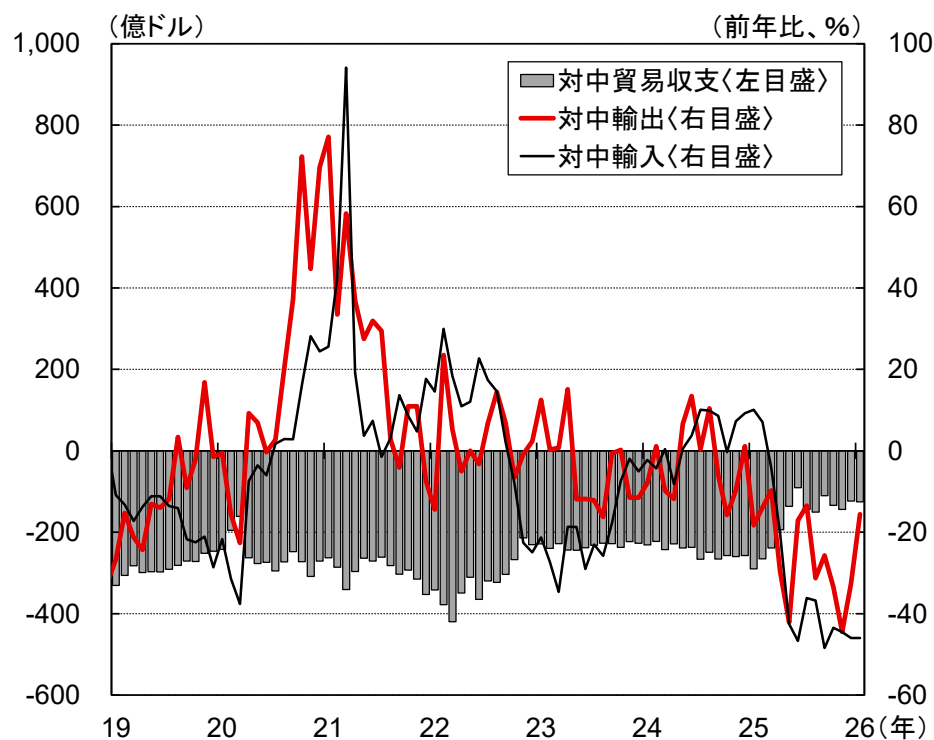
- 1月の貿易収支(財・サービス)は545億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比▲25.3%(同▲184億ドル)と3ヵ月ぶりに縮小。輸出は同+5.5%(同+158億ドル)、うち非貨幣用金は同+47億ドルと増加。一方、輸入は同▲0.7%(同▲26億ドル)、うち医薬品は同▲33億ドルと減少。前年比で見ると、輸出は+10.4%、輸入は▲11.3%。
- 財の貿易収支を国・地域別で見ると、中国は1月に125億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比+1.4%(同+2億ドル)と小幅拡大。対中輸出(財)は同+11.5%(同+9億ドル)、対中輸入は同+5.3%(同+11億ドル)とそれぞれ増加。前年比で見ると、対中輸出(財)は▲15.6%、対中輸入(財)は▲46.0%とそれぞれ減少。
- 対スイスの貿易収支の黒字幅は前月比+29億ドルと拡大。また、対EUの貿易収支の赤字幅は同▲50億ドル、対台湾は同▲24億ドル、対カナダは同▲22億ドル、対メキシコは同▲17億ドルとそれぞれ縮小し、貿易赤字の縮小に寄与。

貿易収支と輸出入(財・サービス)の推移



(注)国際収支ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料)米商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

対中貿易収支と対中輸出入(財)の推移



(注)通関ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料)米商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

8. 金融市場動向

- 10年物国債利回りは、イラン情勢の緊迫化による原油価格上昇及びインフレ懸念の高まりを受けて、3月下旬に4.4%台まで上昇。欧州の中銀では利上げ観測が強まる中、パウエルFRB議長は3月30日に行われた討論会で、長期のインフレ期待は抑制されており、イラン情勢の影響を見極めるために様子見姿勢を取ることが可能と述べたこと等から、長期金利の上昇は一服。
- S&P500は、イラン情勢の緊迫化及びホルムズ海峡の事実上の封鎖を受け、昨年8月以来の水準まで下落。米政権及びイラン側の停戦の意思を巡って収束への期待も高まっているものの、引き続き不透明感が高い。

10年物国債利回りの推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

S&P500種株価指数の推移



(資料) S&Pより三菱UFJ銀行経済調査室作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名 : 株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室(ニューヨーク)
1251 Avenue of the Americas, New York, NY 10020, USA

照会先 : ウォルショー 瞳 e-mail: hwalshaw@us.mufg.jp